

		第4章 私たちの暮らしと経済			
13	(2) ア・イ	1. 消費生活と経済	コンビニエンスストアの経営者になってみよう	1	・「コンビニエンスストアの経営者になってみよう」は、経済に対する関心を高めるため、授業の前に経営者と消費者の立場を踏まえ、家庭で読ませる。
			① 私たちの消費生活	1	
			② 契約と消費生活	1	
			③ 消費者の権利を守るために	1	
14	(2) ア	2. 生産と労働	④ 消費生活を支える流通	1	・労働三法の他、多様化する労働の在り方、増加する非正規労働者、外国人労働者についても扱う。
			① 資本主義経済と企業	1	
			② 株式会社の仕組みと企業の社会的責任	1	
			③ 労働の意義と労働者の権利	1	
15	(2) イ	3. 価格の働きと金融	④ 働きやすい職場を築くために	1	・市場経済の基本的な考えについて、消費者の立場からの視点も持たせる。
			① 市場経済の仕組み	1	
			② 価格の働き	1	
			③ 貨幣の役割と金融	1	
16	(2) イ	4. 政府の役割と国民の福祉	④ 私たちの生活と金融機関	1	・社会保障の充実と財政を支える経済発展の両側面から社会保障制度を考えさせる。
			① 私たちの生活と財政	1	
			② 政府の役割と財政の課題	1	
			③ 社会保障の仕組み	1	
17	(2) イ	5. これからの経済と社会	④ 少子高齢化と財政	1	・「深めよう」は、資料として読む等の課題を出し、確認する。
			① 公害の防止と環境の保全	1	
			② グローバル化する日本経済	1	
			③ 豊かさと経済	1	
18	(4) ア	1. 国際社会の仕組み	[深めよう] 公害のない社会へ水俣市を例に考える	家庭	・「深めよう」は、資料として読む等の課題を出し、確認する。
			[深めよう] 貿易の自由化と日本	家庭	
			コンビニエンスストアのお弁当を企画しよう	—	
			この章の学習を確認しよう	家庭	
19	(4) ア	2. さまざまな国際問題	この章の学習を確認しよう	家庭	・学習内容を整理させる等の課題を出し、確認する。
			① 地球環境問題ー持続可能な社会の実現	1	
			② 資源・エネルギー問題ー限りある資源と環境への配慮	1	
			[深めよう] 日本のエネルギー政策のこれから	家庭	
20	(4) ア	3. これからの地球社会と日本	[深めよう] 貧困問題 公正な社会を創る	1	・「深めよう」は、資料として読む等の課題を出し、確認する。
			④ 新しい戦争 平和な世界に向けて	1	
			[深めよう] バレスチナ問題と中東和平	家庭	
			① 文化の多様性の尊重	1	
21	(4) イ	終章 より良い社会を目指して	② 日本の外交の現状と課題	1	・我が国の領土、国家主権に関する事項については、新学習指導要領の規定に基づき扱う。
			[公民にアクセス] 日本の領土をめぐる問題の現状	1	
			③ 世界とつながる日本	1	
			④ 世界の平和のために	1	
21	(4) イ	3. これからの地球社会と日本	アニマル大陸の危機を救おう	家庭	・「深めよう」は、資料として読む等の課題を出し、確認する。
			この章の学習を確認しよう	家庭	
21	(4) イ	終章 より良い社会を目指して	この章の学習を確認しよう	家庭	・学習内容を整理させる等の課題を出し、確認する。
			この章の学習を確認しよう	家庭	
21	(4) イ	終章 より良い社会を目指して	中学社会の総まとめ 課題を探究する活動	3	・より良い社会の構築のための課題解決に向けた自分の考えの過程や結果を、レポート等にまとめさせ、説明、論述させる。なお、まとめる際には、家庭での学習時間を有効活用する。
			探究活動やレポートの作成	3	

※時間数の精選方法（例）

○小学校社会科とのつながりを意識し、教育課程の見直しを図る。

小学校6年生の社会科においては、国会や地方自治の政治、国際社会に関する問題の学習を扱うため、中学校の生徒がその内容をイメージしやすいという実態がある。そこで、短縮実施する場合は、(3)ア・イ、(4)ア(新：C(1)(2)、D(1))が、比較的しやすいと考えられる。ただし、(2)ア・イ(新：B(1)(2))の「私たちと経済」に関する事項については、従来の生徒の実態からも、丁寧に扱い、基礎的・基本的な知識及び技能を習得することができるよう、時間を確保することが求められる。

○教科書に掲載されている「深めよう」「この章の学習を確認しよう」は、家庭学習の時間に位置付ける。

各学校の授業では、基礎的・基本的な知識及び技能の習得に重点を置き、教科書に掲載されている「深めよう」「この章の学習を確認しよう」については、基本的に家庭学習の時間に充てることが考えられる。また、生徒にレポート等の提出を求める場合は、自分の考えを論述することを意識させるようにしたい。なお、特に公民的分野においては、他者と議論することを通して、多面的・多角的な考えに触れることが大切とされていることから、各学校の教育課程上の時数に余裕がある場合は、これらの活動を積極的に指導計画の中で位置付けていきたい。